

春の足音が聞こえ始めている。被災地では梅の花が開花した。1300年の歴史を誇る奥能登の古社、輪島市重蔵神社では、立春に合わせ、無病息災を祈る福豆まきが行われたことが報道された。地震により、鳥居の上部が崩れ拝殿も損壊したが、地元住民たちが協力し合い、境内では温かい炊き出しが振る舞われ、石川県無形民俗文化財の「輪島まだら」が太鼓の響きと共に唄われた。重蔵神社では毎年9月に太鼓打ち競技会が開催されている。

輪島市では約3割の地域だけ、飲み水として水道が使えるようになった。住まいや仕事、復興まで長い道のりである。それでも、一步一步前へと進む。

\*

\*

\*

2024年2月11日(日)

能登黒島天領太鼓保存会(輪島市門前町黒島)

「天領」と呼称される黒島は、江戸時代から北前船の船主や船乗りの居住地として栄えた町である。2007年3月に起きた能登半島地震でも被害を受けたが、復興を成し遂げ、2009年には国の重要伝統的建物群保存地区に選定された。

しかし、今回の激しい揺れにより、多くの家屋が倒壊し、海底の隆起は目を疑うほどの状態であった。



国指定重要文化財  
廻船問屋「旧角海家住宅」



中央右に人が立っているが、地震前は海中であった場所



漁港から海水がなくなった

2月5日、能登黒島天領太鼓の中町和義代表から、靴が欲しいとの要望があり、避難所である黒島公民館で待ち合わせをする。現在は、食事と就寝の時だけ避難所に戻り、日中は家の修復作業に追われていると伺う。路地を歩くと、割れた窓ガラスや食器が床に散乱し、その中で片付けを行っている高齢者の姿を多く見かける。

太鼓は同公民館に置いてあり、支援物資に埋もれてしまい確認が出来ていない。ただ、「太鼓はおそらく無事だから、もうあれから1ヶ月経った。毎日大変だよ、でも、太鼓を叩きたいね。ここに来てくれているボランティアの皆さんに、お礼で演奏しようかとメンバーと話しているところ」と話して下さった。

#### 黒島公民館



炊き出しの支援ボランティアが昼食を作る



断水は続くが、洗濯が出来るようになった



県外の自治体からゴミ収集車の応援が駆けつける

\*

\*

\*

## 穴水町

輪島市門前町を後にして、太鼓関係者たちの情報共有を行うため、石川県太鼓連盟米田直樹会長宅がある穴水町へと向かう。道中、応急復旧工事で布設された、青い水道管が地面に長く繋がっている様子が見られ、町では仮設住宅の着工が始まっていた。上下水道も使用可能な地域が広がってきている。

ご自宅に伺い、奥様から地震直後の様子や、避難所での工夫などをお聞きしていると、突然の揺れに襲われた。緊急警報のアラームに、体がこわばる。「外に出ろ！」会長の声とともに慌てて避難し、「車はもっと屋根から離して！瓦が飛ぶから！」の声に車を動かす。震度4であったそうだが、元旦の揺れを思い出し心臓が波打った。

能登半島地震から1ヶ月あまり経ち、全国紙でも震災を取り扱う紙面は減ってきている。しかし、被災地ではこの繰り返しである。



\*

\*

\*

2024年2月17日(日)

## 石崎奉燈祭関係者(七尾市内)

石崎奉燈祭の関係者から「見通しが立つまで、祭りに使う太鼓を一式預かって欲しい」と浅野太鼓楽器店に連絡が入り、一緒に同行させてもらう。ご自宅に伺うと家屋の基礎が傾き、勝手口に隙間ができています。

関係者の方々から現在の状況をお聞きすると、「断水が続き、お風呂の整理券がお昼に配られるけど、復旧優先で仕事している人間は取り行けないから、なかなか入浴できない。」と悩みを話された。また、「コロナで縮小していたお祭りを去年、ようやく通常開催したばかりだった。祭りを引き継いでいくためにも1年ごとにしないと、体が鈍る。キリコは無事だったし、こんな状況だけど今年も祭りをしたいね。」と、青空が広がる、去年の石崎奉燈祭のお写真を見せてくれた。

国連教育科学文化機関の無形文化遺産に登録されており、毎年5月に開催される「青柏祭の曳山行事」は今年、中止になることが発表された。叶うならば、8月に石崎奉燈祭の祭ばやしの音が街中に広がることを願う。



\*

\*

\*

#### 石崎豊年太鼓響友会(七尾市内)

石崎豊年太鼓響友会の代表であり、祭りのキリコも制作されている杉原誠也さんの会社に伺う。工場の壁に、県下太鼓打競技大会で受賞された様々な称号が飾られている。石川県では和太鼓の文化継承を目指すため、毎年、県内各地で県下太鼓打競技大会が開催される。入賞者は相撲の格付けになぞらえて、優勝が大関、続いて関脇、小結となり、十年に一度、歴代大関による横綱大会が開催される。

同チームは、元旦に和倉温泉加賀屋で演奏する予定であった。震災から3日目に太鼓の無事を確認し、代表者宅に太鼓を避難させた。「こんな状況だからこそ、依頼があればどんどん太鼓を打ちたい。」と力強く仰った。

\*

\*

\*

現地職員として2ヶ月が過ぎ、「支援」という言葉の重さと様々な葛藤、体力的、精神的にも全てに応えられない自分の無力さに苛まれることが度々ある。そんな中、東日本大震災を経験された太鼓関係者から、お電話をいただいた。「当時、私たちが一番怖かったのは皆から忘れ去られることでした。外部と時間の進み方も違って、忘れられて、取り残されることが何よりも怖かった。だから、想ってくれていることが心強いのですよ。」とお話してくださった。被災地では、色々な形の支援の輪が広がっている。どうか、これからも一生懸命立ち上がろうとしている人たちがいることを忘れないで欲しい。

また、被災地では、完全ではないものの、物流と道路状況が改善され、太鼓関係者からのご要望もなくなったので、物資による支援は今回で終了となる。今後は、新たな形での支援に移行していく。

(2024年2月27日)

## 日本太鼓財団 支援物資一覧表 (2024.2.11)

### 能登黒島天領太鼓保存会

購入先	項目	数量	金額
ABC-MART	靴	6足	28,534
合計			28,534

\* \* \*

本文にもありますとおり、被災地域の状況の変化に合わせて、緊急物資支援を原則として終了し、支援内容を次のステップに移行してまいります。

支援にあたり、浅野太鼓楽器店の浅野正規専務から引き続きご協力を頂いております。ありがとうございます。

また多くの方々からご寄付を頂いており、寄付金の累計額は2月29日現在で7,738,701円となりました。

心より御礼申し上げます。

お預かりした寄付金は大切に使ってまいります。

### 収支計算書(2/29 現在) (単位:円)

収入		金額	属性	備考
1/5	全九州太鼓連合	1,000,000	地区	
1/6	関八州太鼓連合	100,000	地区	
1/9	東北太鼓連合	300,000	地区	
1/18	浅野太鼓楽器店	1,000,000	賛助	
1/27	河合 光夫	10,000	その他	シニアコンクール出場者
1/29	福井県太鼓連盟	30,000	支部	
1/29	松本 弘昭	35,000	その他	シニアコンクール出場者
2/1	東京都支部	100,000	会員	
2/2	櫛引 秀明	50,000	その他	シニアコンクール出場者
2/2	浅野 義幸	100,000	その他	浅野太鼓楽器店 17 代当主
2/6	岡山県支部	110,000	支部	
2/7	宮城県太鼓連絡協議会	150,000	支部	
2/8	北海道道東支部	30,000	支部	
2/9	茨城県支部	95,000	支部	

2/13	千葉県支部	100,000	支部	
2/13	岐阜県太鼓連盟	100,000	支部	
2/13	岐阜県太鼓連盟獅子の会	50,000	その他	国文祭ゲスト団体
2/13	全九州太鼓連合	2,805,701	地区	
2/14	神奈川県支部	50,000	支部	
2/16	佐々城 清	1,000,000	本部	常務理事
2/16	高野 右吉	10,000	その他	副会長
2/16	宮城県太鼓連絡協議会	20,000	支部	
2/16	滋賀県支部	50,000	支部	
2/18	兵庫県支部	200,000	支部	
2/26	日本太鼓財団事務局	143,000	本部	
2/29	静岡県支部	100,000	支部	

計 7,738,701

支出		金額		備考欄
1/11	輪島支援物資	121,741		
1/19	穴水/能登町/志賀町	130,080		
1/27	志賀町/輪島	18,415		
2/8	名舟町	54,780		
2/11	輪島/七尾	28,534		

計 353,550

収支 差額		7,385,151
----------	--	-----------